

富里市新アクセス構想研究会報告書

選ばれるまちづくり
富里と成田空港



富里市新アクセス構想研究会

目 次

背景と目的	1
1. 富里市の現状	
1.1 統計データからみる富里市の現状	2
1.2 都市計画について	37
1.3 公共交通について	46
2. 富里市と成田空港	
2.1 富里市の発展と成田空港	51
2.2 富里市の役割	52
2.3 成田空港の今後	53
3. まちづくりの方向性と新アクセス	
3.1 まちづくりの方向性	55
3.2 新アクセスへ向けて	55
4. 富里市の「選ばれるまちづくり」の提案	58
参考資料	
1. 富里市周辺の施設	61
2. 各輸送システムの事例	66
3. つくばエクスプレスの計画～完成, まちづくりの事例	73
富里市新アクセス構想研究会活動記録	
1. あとがき	83
2. 活動結果	84
3. 民間事業者への訪問調査	86
4. 富里市新アクセス構想研究会設置要綱	94
5. 研究会担当員名簿	95

1. 背景と目的

富里市には、大正 3 年から昭和初期にかけて三里塚（現成田市）と八街を結ぶ軽便鉄道が走っていた。当時は、本市域にも「富里駅」（現在の「両国」地区）と「実の口駅」の二つの駅が存在し、賑わいを呈したと言う。現在、鉄道駅のない本市の公共交通は、専らバスやタクシーで、「成田国際空港から富里を経由して八街」を結ぶようなアクセスが以前のように存在していたら、どんなまちづくりの展開が見られるだろう。

本市は、昭和 53 年の成田国際空港の開港後、空港に隣接することから関連企業の進出や空港就業者の居住地として、成田国際空港とともに発展を遂げてきた。しかしながら、目まぐるしく変化する航空業界の動向は、本市にも大きな影響を及ぼしている。今後とも本市が成田国際空港とともに歩んでいくためには、空港を取り巻く状況を注視しながら、戦略的にまちづくりを進めることが必要となっている。さらに人口減少化や少子高齢化などの課題を相まって、今まで以上に、「人、そして企業から選ばれるまち」づくりが求められている。

本報告は、成田国際空港の臨空都市として、さらなる展開を図るため、富里市のこれからのまちづくりを、「新しいアクセス構想」と関連づけながら検討を行うものである。

なお、参考資料として、本報告の検討過程において調査・検討を行った事項について、併せて収録することとした。

平成 26 年 2 月 24 日

（付記）

成田空港を起点とした新アクセス構想としては、すでに芝山鉄道芝山千代田駅以南の芝山町中心部までの延伸計画があるが、ここで取り上げる構想はこの延伸計画とは別の地域振興策として検討するものである。